

令和6年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一人一台のタブレット端末貸与により、ほとんどの生徒が ICT 機器の活用の基本的なスキルを身に付けた。
- ・作業学習に対して、意欲的に取り組む生徒が多い。工具等の名称や使用方法等、基礎的・基本的知識は、ある程度定着している。
- ・よりよい生活に向けて、基本的な知識や技能を意欲的に身につけようとしていた。

(2) 課題

- ・Google の環境を使いこなせていない生徒が見られた。
- ・座学で身に付けた知識と実際の作業の関連付けが不十分な生徒が見受けられた。
- ・よりよい生活の実現に向けて、自らの課題の発見ができない生徒も見られた。

2 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	知識と実際の作業の関連付けが不十分な生徒が多い。	自分の考えを言葉にしたり、効率的に作業したりする習慣が身に付いていない。	作業に対する意欲は比較的高い。 技能の習得への意欲はある。
第2学年	知識と実際の作業の関連付けが不十分な生徒がいる。	既習事項の説明はできるが、実生活と関連付けた思考・判断・表現に課題がある。 よりよい生活への課題意識が薄い。	授業中の挙手・発言等は、特定の生徒のみになる。 学んだ知識や技能を生活に生かす意識が弱い。
第3学年	指示された内容についての確に把握し実践することができる。コンピュータの基本的スキルが定着している。	解決策や技術をまとめる能力、日常生活に活用しようとする能力に差が見られる。自分の考えを実生活に生かそうとする生徒が少ない。	より多くの生徒が、学んだことを応用して学習に取り組むように、意欲の喚起に努める必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	タブレットを活用し、調べ学習を取り入れることにより、基本的な知識の定着を図り、その知識を生かした工具の使用方法等を身に付けられるようにする。	タブレットを活用し、身の回りで活用されている技術について調べさせ、生徒の探求心や発想力、想像力を引き出せるようにする。	全体説明を短くし、個人でタブレットを活用することにより、意欲向上を図る。
第2学年	口頭での説明だけでなく、タブレットを使用し、基本的に事項を調べさせ、主体的に知識・技能が定着できるようにする。	身に付けた知識や技能を生かし、自分の考えプレゼンソフトを活用し発表させたり、まとめたりする機会を設ける。	タブレットを活用して、他者との意見共有を行い、生徒が意欲的に取り組めるような工夫を行う。
第3学年	コンピュータを扱う際に必要な知識や、ネットワーク利用時の注意点など、タブレットで調べ学習等を行いながら定着を図る。	自分の身に起こったことを想定して考えさせるなど、身近な内容を考えさせる。また、自分の意見と他の意見を、タブレットの活用を通して比較させ、よりよい解決方法を探究させる。	基本的な学習内容の定着に加えて、発展的な内容を行うことで得られる具体的な技能等を、タブレットを活用して探究させる。